

研究の概要

1. 研究テーマについて

令和5・6年度 家庭科研究推進校 研究テーマ

友達・家族・地域への思いを高め、よりよい生活を築こうとする子をめざして

～始めようハテナから 学ぼうみんなで つくろうよりよい生活～

昨年度(令和5年度)は、教師が捉えた木月の子どもの姿、それを踏まえて育てたい子どもの姿をもとに研究テーマを設定し、研究を行った。今年度も前年度の実践の成果と反省を生かしつつ、同じテーマで取り組むことで、研究をより深めていくことにした。

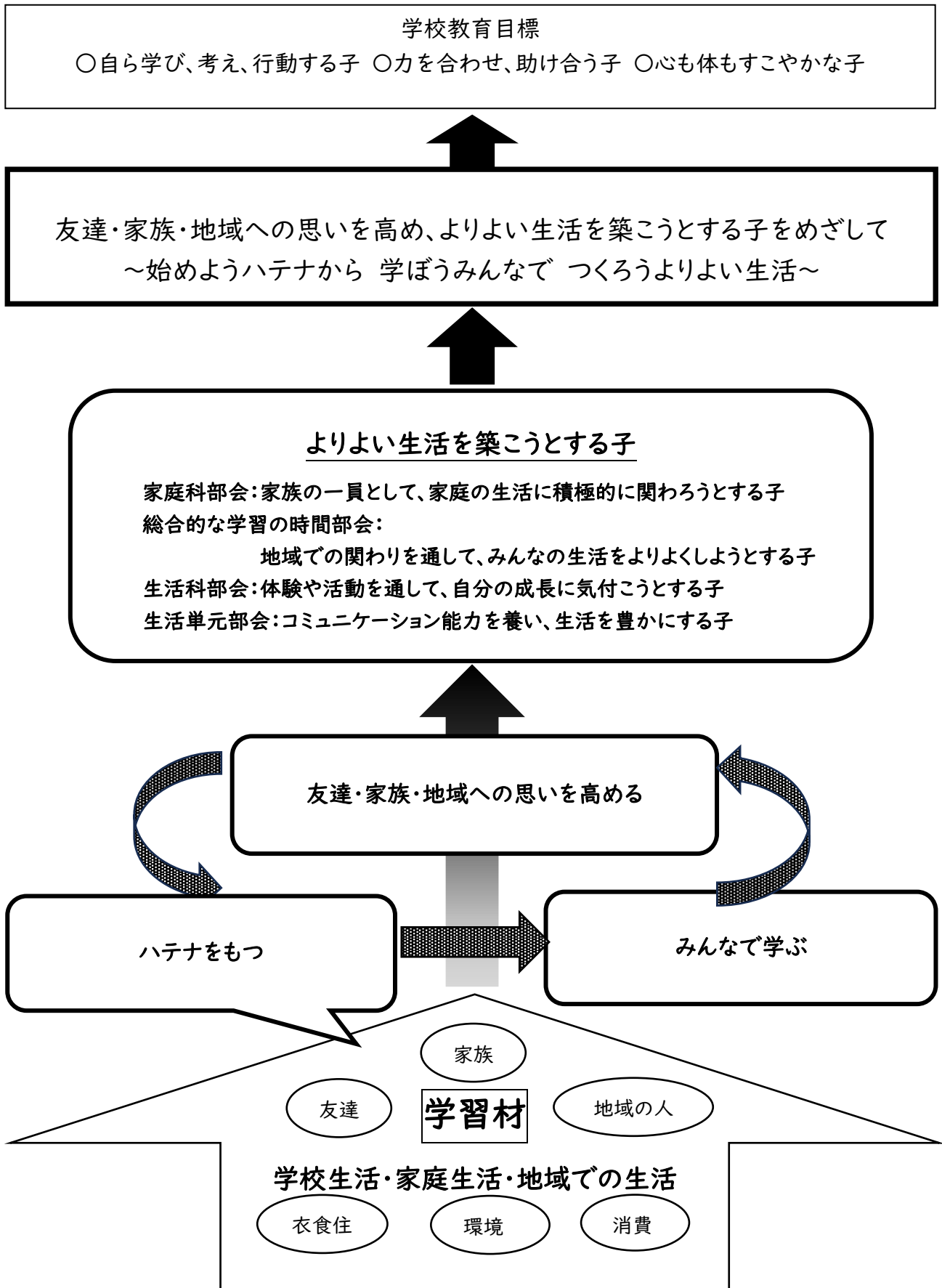
テーマ 友達・家族・地域への思いを高め、よりよい生活を築こうとする子をめざして

自分たちの生活に関連する人・事象との関わりを大切に学習を進める中で、愛着の気持ちやその人たちのためにもっと知りたい、できるようになりたいという思いを高め、よりよい生活(学校生活、家庭生活、地域での生活)を築こうとする子を育成することをめざして研究を行う。教師として、育てたい子どもの姿を表現している。

サブテーマ ～始めようハテナから 学ぼうみんなで つくろうよりよい生活～

サブテーマとして、子どもにも分かりやすい言葉を掲げた。ハテナとは、なぜ?どうして?どうやって?どのように?などの総称。そのハテナをもとに、友達と関わりながら考えを深めたり広げたりする学び合いの学習を進め、よりよい学校生活、よりよい家庭生活、よりよい地域生活をつくることをめざす。このサブテーマは、育てたい子どもの姿をどのような学習形態で進めるのかを表現している。子どもとテーマを共有し、教師と子どもと一緒に授業を作り上げていきたいという願いを込めている。

2. 研究構想について



3. 研究の方法

(1) 研究テーマに沿った授業研究・カリキュラム開発

2年目となる今年度は、昨年度の研究を土台として発展的な研究を進めている（昨年度の取組については、昨年度の紀要参照）。昨年度の実践の成果と反省を取り入れながら、今年度の子どもたちの実態に合わせて学習計画を立て、授業研究を行う。

(1) 研究テーマに沿って授業研究を行う

(2) めざす子ども姿に迫るための具体的な手立てをとって授業を組み立てる

- 柱1 「家族へ思いを高める」ための手立て
- 柱2 「よりよい生活を築こうとする子」の育成の手立て
- 柱3 「ハテナを見付ける、ハテナをもつ」ための手立て
- 柱4 「みんなで学ぶ」ための手立て
- 柱5 振り返りを通した学びの意識化

(3) 家庭科の内容につながる学習を明らかにする

(2) 家庭科の学習内容や研究テーマにつながる日常的な取組

昨年度行なった取組開発の実績をもとに、今年度は全学年で系統立てた取組について検討し、実践を行っている。

(1) 家庭科の内容に関する日常的な取組

衣食住それぞれで発達段階に応じた取り組みを計画し、家庭科の学習へのつながりも明確にする。

- 【住】道具箱、教科書ボックスなど整理タイム「すっきりタイム」の創設（毎週水曜日給食後）
- 【食】給食の栄養、国語と関連した大豆製品探し、旬の食べ物探しなど食育の取組
- 【衣】気候に合った着方の意識化

(2) 研究テーマ「ハテナをもつ」「みんなで学ぶ」に関わる、授業での日常的な取組

- 【今日のハテナ】どの教科でも「ハテナ」を意識した学習を展開する。そのための導入の工夫をする。
- 【「みんなで学ぶ」様々な方法やスタイルの検討】すべての教科において日常的に実践する。

(3) 学習環境の整備

(1) 学校内における学習環境の整備

各学年で、研究教科（領域）に関わる掲示、テーマに関わる掲示、家庭科の内容につながる掲示などを通して、研究に合わせた学習環境の整備を行う。学習における取組の足跡を掲示し、いつでも学習を振り返られるようにするために、方法や掲示場所等については、環境部会で具体的に検討し、決定する。

(2) 家庭科室の環境整備

家庭科部会を中心に家庭科室の環境整備を行い、家庭科の指導がスムーズに行えるようにする。また、清潔な環境を保てるようにする。

- ・「家庭科室使用の七か条」の作成と掲示
- ・「片付けチェックリスト」の作成・活用
- ・「調理実習の流れ」の作成・活用
- ・チラシのごみ入れ、古布の切れ端の設置・活用
- ・冷蔵庫使用上のきまりの周知
- ・「各題材で使用する備品・消耗品一覧」の活用